

フィリピン共和国

バターン難民センター拡充計画

基本設計調査報告書

昭和58年3月

国際協力事業団

無償設
83-315

フィリピン共和国

バターン難民センター拡充計画

基本設計調査報告書

JICA LIBRARY



1045015E3J

昭和58年3月

国際協力事業団

國際協力事業團	
輸 584.8.27	118
登録No. 13994	216
	GRB

序 文

日本国政府は、フィリピン共和国政府の要請に応え、同国バターン難民センター拡充計画に協力することを決定し、国際協力事業団が本件調査を実施した。

当事業団は、昭和58年1月16日から2月4日まで、外務省経済協力局経済協力第二課首席事務官・斉藤泰雄氏を団長とする調査団を同国に派遣し、本計画の基本設計に必要な調査とフィリピン国側関係者との協議を行ない、帰国後の国内作業を経てここに本報告書完成の運びとなった。

本報告書が、本計画の推進に寄与し、ひいては両国の友好・親善に資すれば幸いである。

最後に、本件調査にご協力いただいた関係各位に深甚なる謝意を表する次第である。

昭和58年3月

国際協力事業団

総裁 有 田 圭 輔



目 次

要 約	1
第一章 緒 論	
1-1 要請の背景	5
1-2 要請の内容	5
1-3 調査団派遣の経緯	5
第二章 計画の背景	
2-1 PRPC	7
2-1-1 設立の経緯	7
2-1-2 目 的	7
2-1-3 組 織	8
2-1-4 活動の現状	10
2-1-5 難民動向	18
2-2 既存施設の概要	19
2-2-1 既存施設計画の概要	19
2-2-2 主な既存施設概要表	21
2-2-3 インフラストラクチャの現状	23
2-3 計画の内容	28
第三章 基本計画	
3-1 基本計画	30
3-1-1 基本計画	30
3-1-2 費用分担	31
3-2 施設計画概要表	33
3-3 建築計画	37
3-3-1 教育訓練関係	38
3-3-2 医療サービス関係	50
3-4 設備計画	63
3-4-1 電気設備計画	63
3-4-2 空調換気設備計画	63
3-4-3 給排水衛生設備計画	63

3-4-4	電話設備計画	63
3-4-5	施設毎の設備計画	64
3-5	機材計画	66
3-5-1	教育訓練関係	66
3-5-2	医療サービス関係	66
3-5-3	機材リスト	67
3-6	概算事業費	71

第四章 施工・工程計画

4-1	施工計画	72
4-2	全体工程	74

第五章 維持管理計画

5-1	維持管理計画	76
5-2	エネルギーコスト	76
5-3	人件費	77

第六章	資料編	78
-----	-----	----

要 約

要 約

日本政府はかねてより、インドシナ難民問題には人道的見地より深い関心を有し、多大の努力を行ってきた。こうした努力の一環として、今回、フィリピン共和国政府の要請に応え、同国バターン県モロンの「バターン難民センター(Philippine Refugee Processing Center ; PRPC)」拡充計画に協力する用意があり、このため国際協力事業団が1983年1月16日より2月4日まで基本設計調査団をフィリピン共和国に派遣した。

PRPCは最終定住国への移住前のインドシナ難民の一時滞留施設として1980年に建設されたもので、フィリピン共和国政府、UNHCRの協力の下にインドシナ難民に食料、住居の提供を行っており、これに加え必要な医療サービスと教育訓練とを行っている。調査団は、1982年12月に開催された日・米・比・UNHCR間の本拡充計画にかかわる協議を踏まえ、更に今回の現地調査、フィリピン側関係者との協議の結果にもとづき、本件協力の内容・規模を次の通りとするのが妥当であるとの結論を得た。

1. 教育訓練関係 : 流出したインドシナ難民を救い上げ、心身ともに健康で最終定住国での生活を可能ならしめるための施設・機材。

① 視聴覚・学生サービスセンター

施設 : 視聴覚教室、登録事務室、指導室、テスト室、暗室、その他の新築(2棟)、延570m²

機材 : 視聴覚機材、事務機材、暗室用機材、その他

② 実習用食堂

施設 : ファストフード、ベーカリー、事務室、売店を含む増築と厨房を含む一部既存施設の改築、延283m²

機材 : 厨房機材、ファストフード、ベーカリー、売店用機材、厨房事務機材、その他

③ ゲストハウス

施設 : 厨房、食堂、宿泊室、ラウンジ、ロビーを含む既存施設の改築、延480m²

機材 : 厨房機材、宿泊室用機材、ハウスキーピング機材、事務機材、その他

④ スクールハウス

施設 : 初歩職業訓練(給仕、雑役、ベッドメーカー、庭師、ビル管理、キャッシャー)用教室棟の新築、延900m²

機材 : 上記初歩職業訓練用機材、その他

⑤ 中央放送設備

施設 : 既存管理棟内の電話交換室一部を本設備用に改築、延25m²

他に敷地内屋外配線

機材：放送設備機材、スピーカー、その他

⑥ スタッフ用宿舎

施設：各14人用(2人/1室)宿舎の新築(4棟)、延600㎡

機材：ベッド等寝具、厨房機材、その他

⑦ 初歩職業訓練部門用事務機材

機材：視聴覚機材、事務機材、その他

⑧ 車 輜

機材：難民用バス4台、スタッフ用小型バス(12人乗り)2台

2. 医療サービス関係：非健康な状態の多い難民の健康管理に当たり、最終定住国の健康水準を確保させるための施設・機材

① 医科・歯科集団検診所

施設：受付、検査室、医科・歯科診察室、記録室、その他を含む新築、
延243㎡

機材：医科・歯科用検査・診察機材、その他

② 医科・歯科診療所

施設：診察室、治療室、歯科治療室、医師室、暗室、薬局その他を含む新築
(2棟)、延676㎡

機材：医科・歯科機材、その他

③ 病 院

施設：既存施設内の検査室、物療室、解剖室、手術室、救急室、薬品庫、眼科、
耳鼻咽喉科、その他の移設・改造に伴う改築、延762㎡

機材：検査機材、救急機材、眼科・耳鼻咽喉科機材、物療機材、その他

④ 歯科技工所(病院附属)

施設：診療室、技工室その他を含む新築、延105㎡

機材：診療機材、技工用機材、その他

⑤ 救急車及び車庫

施設：車庫の新築、延48㎡

機材：救急車2台

⑥ 医薬品倉庫

施設：既存倉庫棟内一部を医薬品倉庫として改築 90㎡

機材：保存用冷蔵庫、収納棚、その他

⑦ スタッフ用宿舎

施設：各14人用(2人/1室)宿舎の新築(4棟)、延600㎡

機材：ベッド等寝具、厨房機材、その他

本計画の実施には約103千万円の経費と約7ヶ月の工期が必要と考えられる。なお、基本設計を行うにあたっては、本施設がインドシナ難民に教育訓練と医療サービスを付与するものであり、又、難民の一時滞留施設であることを充分認識し、既存施設のグレードを逸脱することなく、更に機能的には目的遂行に充分対応し得るものとする点に重点を置いた。

PRPCの活動は世界的重要課題であるインドシナ難民問題に対し、人道的立場からその解決に努力しようというものであり、国際的に高い関心を寄せられている。この拡充計画に日本政府が協力を行うことはアジアの一國たるわが国にとって意義深いものである。しかし、本センターの運営が多くのボランティア団体に依存している等問題も多く、フィリピン政府、UNHCRの確固たる協力関係の下、施設・機材の維持管理、医療・訓練のための要員確保等、健全な運営・管理体制の確立が強く望まれる。

第一章 緒 論

1-1 要請の背景

インドシナ難民の定住対策問題は世界的重要課題のひとつと言える。

フィリピン共和国政府は国連の要請に応え、この問題の人道적解決に協力することとし、1980年同国バターン県モロンに「バターン難民センター(Philippine Refugee Processing Center; PRPC)」を建設した。

本センターの機能は、アメリカ合衆国を中心とする先進諸国への定住に必要なオリエンテーションと、語学・初歩的職業技術を中心とする教育訓練とをインドシナ難民に対して施すことにある。また、難民の多くはフィリピン到着時点で何らかの医療サービスを必要としており、そのための検診、治療、更には最終定住国入国に必要な医療条件を整備するための医療処置の実施も本センターの主要機能のひとつである。

しかしながら、本センターの現存施設状況は、上記機能を十分に発揮するには満足し得るものではなく、初歩的職業技術訓練と医療サービスのための施設・機材の拡充について、日本の無償資金協力が今回要請されたものである。

1-2 要請の内容

1982年12月8,9日行われた日米比三国間のテクニカルミーティング、および同年12月11日の日米比三国とUNHCR間でのハイレベル協議において日本の協力の枠組が設定された。上記を踏えた本調査団のとりまとめによれば、要請の内容は大きく二種類の施設・機能とからなる。ひとつは教育訓練関係の諸施設と機材とからなり、訓練学校施設、スタッフ宿舎、視聴覚学生センターの新築をはじめ、実習用食堂・ゲストハウスの改築、事務機材、放送設備、交通手段としてのバス、小型バスなどが含まれる。他のひとつは医療サービス関係の諸施設・機材で、医科・歯科集団検診所、同診療所、歯科技工所、スタッフ宿舎の新築および病院の改築とそれらにともなう医療機材、医薬品、救急車輛などからなっている。

1-3 調査団派遣の経緯

重要且つ緊急な問題として全世界より強い関心を持たれているインドシナ難民定住問題に対し、国連を通じて米国につく拠出金負担国として協力している日本は、今回のPRPC拡充計画においても人道的立場から積極的に応えることとし、難民の保護・訓練という緊急度の高い問題の性格を考慮し、1982年12月に行われた、日米比およびUNHCRの四者間の協議を踏まえ、至急、協力の妥当な内容・規模を調査・検討することを決定した。

国際協力事業団はこうした状況を受けて、1983年1月16日より2月4日まで、外務省経済協力局経済協力第二課首席・斉藤泰雄氏を団長とする基本設計調査団をフィリピン共和国に派遣した。(調査日程および調査団員名は資料編参照)

第二章 計画の背景

2-1 PRPC

2-1-1 設立の経緯

1975年のインドシナ政変後、インドシナ三国から流出し始めた難民は1978年のベトナムからのボートピープルの急増に到り、ASEAN諸国に対し、経済・社会・政治および安全保障上の大きな問題を惹起するところとなった。

上記の事情を踏まえ、1978年12月ジュネーブで開催されたUNHCR 東南アジア難民問題関係国協議の席上、マレーシアから「大規模難民収容センター」設立の提案がなされ、1979年2月、ASEAN各国はこの提案を受けて協議し、特にインドネシアとフィリピンは場所提供の用意のあることを表明した。

PRPCについては、1979年7月にジュネーブで開催されたUNHCR主催の国連インドシナ難民国際会議にて、東南アジア諸国に散在している難民一次保護施設から合計50,000人のインドシナ難民の一時受け入れの表明がフィリピン共和国政府からなされた。その具体化として、1979年8月、マルコス大統領は、国際難民保護管理のためのタスクフォースを創設し、パターン難民センターの構想策定、立案にあたらせた。

1979年10月、第34回国連総会を控え、イメルダマルコス大統領夫人より再度上記内容が公けにされ、同年11月にはフィリピン共和国政府とUNHCRとの間でパターン県モロンにPRPCを設置・運営する旨の覚え書が取りかわされた。

この覚え書によれば、フィリピン共和国政府がPRPCの実施機関となっており、Minister of Human Settlements (イメルダ夫人)を長とするタスクフォースがその任にあたり、UNHCRは管理運営にかかわる費用の負担および会計監査を担当する。また対象とする難民は、PRPCでの教育訓練受講条件の整っている者で且つ、最終定住国の定ったインドシナ難民に限られるとしている。

2-1-2 目的

難民が自らの共同体を作ることを側面より支援し、彼らが最終定住国での新しい環境によりスムーズに適応し得るような力を貸すことがPRPCの目的である。

言いかえれば、過酷、悲惨なる過去の経験のため、呆然自失の状態にある難民に対し、個人としての尊厳と自信、社会の一員としての自覚を取り戻させると同時に、母国の社会、文化に対する誇りを再認識させることによって、社会復帰を可能ならしめることである。そのため、PRPCにとっては、難民の多くが失いかけている心身の健康を取り戻すために必要な医療サービス機能並びに、社会復帰および最終定住国での社会生活への適応を図る教育訓練機能を充実することが不可欠である。

2-1-3 組織

Minister of Human Settlements であるイメルダ夫人を長とし、関連諸省庁の長官により構成されるタスクフォースが実施機関の頂点にあり、管理運営の実務は National Housing Authority の長官であるトピラス将軍を Administrator とする実行スタッフによって行われる。(図2-1-3, 表2-1-3)

図2-1-3 PRPC 管理及び行動グループ組織図

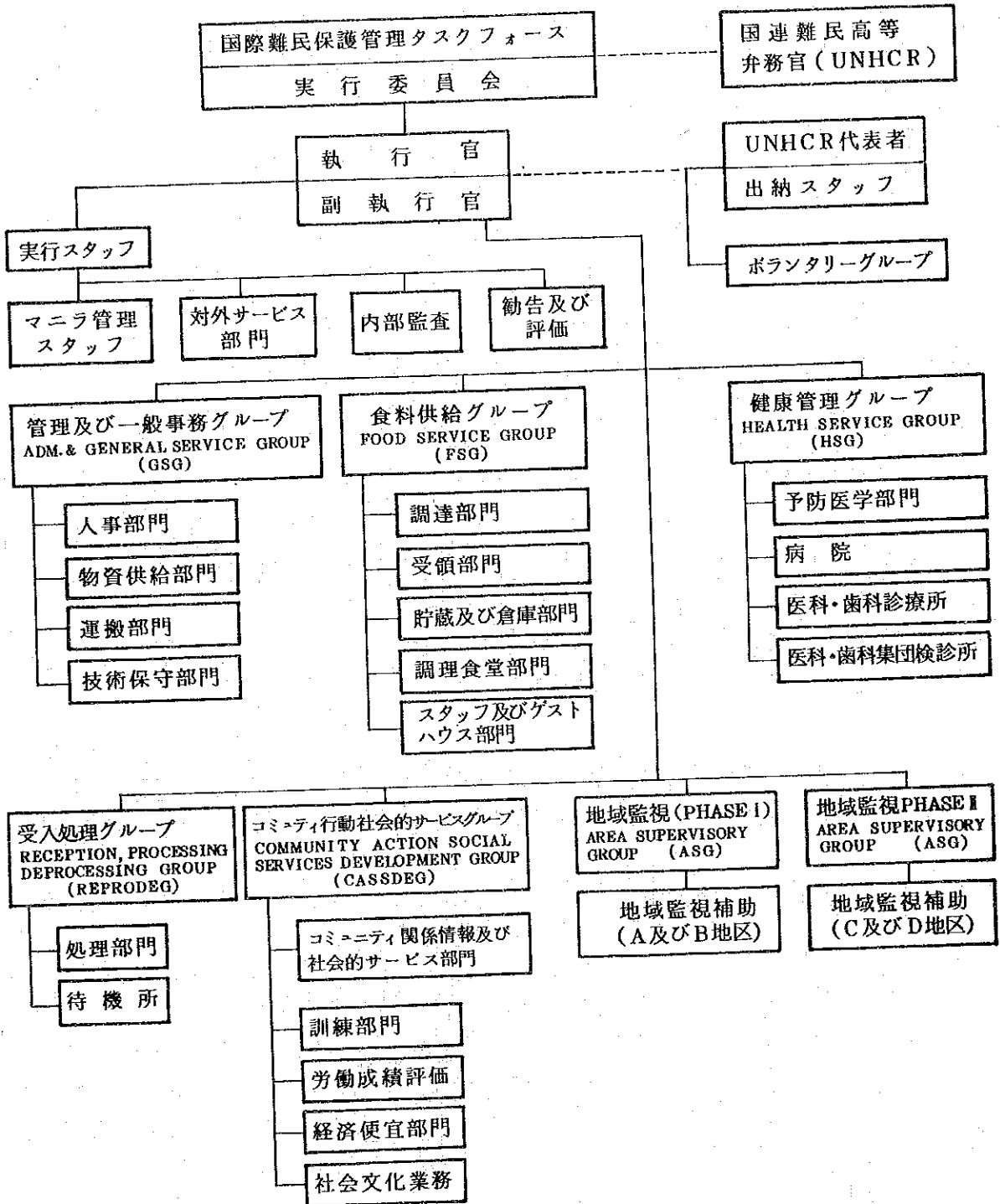


表2-1-3 タスクフォース、関係国大使館、ボランティアグループの構成

TASK FORCE

Chairman	Minister of Human Settlements
Member	Minister of Foreign Affairs Minister of National Defense Minister of Public Works Minister of Public Highways Minister of Local Government and Community Development Minister of Natural Resources Minister of Health Minister of Agriculture Minister of Education and Culture Minister of Transportation and Communication Acting Minister of Social Services and Development
Secretariat	Deputy Minister of Human Settlements Deputy Minister of Public Works Flag Officer in command of the Philippine Navy General Manager of National Housing Authority

PARTICIPATING EMBASSIES

United States	Canada
West Germany	France
Norway	Switzerland
Japan	Austria
Spain	Sweden

VOLUNTARY AGENCIES

Joint Voluntary Agency	(JVA)
Intergovernmental Committee for Migration	(ICM)
International Catholic Migration Commission	(ICMC)
World Relief Corporation	(WRC)
Caritas Manila	(CARITAS)
Philippine National Red Cross	(PNRC)
Salvation Army	(SALVATION ARMY)
Philippine Baptist Refugee Ministries	(BRM)
Community Mental Health Services Group	(CMHS)
Center for Assistance to Displaced Persons	(CADP)
Philippine Navy	
Philippine Constabulary	
Bureau of Posts	
Central Bank of The Philippines	
Local Government, Municipality of Morong	
Employable Skills Training for Resettlement	(ESTR)
Mormon Christian Services	(MCS)
インドシナ難民を助ける会	

2-1-4 活動の現状

PRPCの活動は教育訓練と医療サービスとに大別され、各ボランティアグループの協力を得て進められる。

1. 教育訓練

難民の生活態度確立を目指す活動はPRPCが担当し、難民指導窓口・コミュニティ作りやその情報、難民勤労促進などの他、難民ボランティア活動・社会・文化活動を行っている。

言語・職業を教えるのは各ボランティアグループの協力下に行われており、言語教育、職業教育、社会・文化教育、広域社会教育などを行っている。

協力ボランティアグループとそのスタッフ数、および教育訓練活動のプログラムは表2-1-4a、表2-1-4bの通りである。

表2-1-4a 各ボランティア団体とその派遣スタッフ数(1982年12月現在)

ボランティア名	PRPC内	MANILA	総数
1. BRM/Philippine Baptist Refugee Ministries	18	0	18
2. CARITAS/Caritas Manila	14	0	14
3. CMHS/Community Mental Health Service Group	11	2	13
4. ESTR/Employable Skills Training for Resettlement	4	0	4
5. GSL/German as a Second Language	6	0	6
6. ICM/International Committee for Migration	23	2	25
7. ICMC/International Catholic Migration Committee	338	15	353
8. JVA/Joint Voluntary Agency	10	0	10
9. MCS/Mormon Christian Services	8	0	8
10. NSL/Norwegian as a Second Language	7	0	7
11. PNRC/Philippine National Red Cross	7	0	7
12. SALVATION ARMY	18	0	18
13. US Refcoord	2	1	3
14. WRC/World Relief Cooperation	33	0	33
15. インドシナ難民を助ける会	2	0	2
合計	501	20	521

表 2-1-4b ボランティア団体による訓練活動概要

(1982年12月現在)

訓練内容	プログラム名	実施 ボランティア名	対象年齢	期 間	時間数/日 日数/週	現在の クラス数	現在の 訓練生数	卒業生数 累 計
語学教育 と 文化指導	英 語	ICMC	16~55才	8週間	4.5時間/日 6日/週	0	0	32,925
	文化指導			4週間		0	0	32,895
	英 語 + 文化指導			24週間		30	479	197
	英 語 + 文化指導			4週間		121 (レベル2 3-7) 46 (レベル2)	1,610 (レベル 3-7) 488 (レベル2)	0
	英語, 文化普及			4週間		0	0	315
	ノルウェー語	NSL	10~55才	対象難民 の滞在期 間を通じて	3時間/日 5日/週	12	264	176
	ドイツ語	GSL	10~55才	8週間	4時間/日 5日/週	0	0	1,992
	日 本 語	インドシナ 難民を助け る会	10才以上	12週間	3時間/日 5日/週	4	44	0
	老人向英語 +文化指導	MCS	56才以上	8週間	2時間/日 5日/週	15	113	686
	少年指導	WRC	7~15才	14週間	2時間/日 5日/週	33	1,128	14,413
幼児指導	CARITAS	4~6才	12週間	2時間/日 5日/週	12	393	5,617	
小 計	11プログラム					313クラス	4,519人	89,216人

表 2-1-4b (2)

訓練内容	プログラム名	実施 ボランティア名	対象年齢	期 間	時間数/日 日数/週	現在の クラス数	現在の 訓練生数	卒業生数 累 計
職業訓練	大 工	BRM	18~50才	7 週間	3時間/日 7日/週	1	26	549
	鉛 管 工					2	80	909
	電 気 工					3	127	707
	自動車修理					3	168	416
	製 図 工					1	18	101
タイピスト	WRC	17~35才	10 週間	1.5時間/日 5日/週	0	0	1,912	
家事手伝い		16~50才	4 週間	1.5時間/日 5日/週	0	0	1,151	
補助看護婦		16~45才	10 週間	2時間/日 5日/週	1	23	50	
裁 縫	SALVATION ARMY	18~50才	4 週間	1時間/日 5日/週	0	0	427	
婦人服仕立					0	0	750	
洋服仕立					0	0	815	
クローゼ編み		10~50才			0	0	654	
刺 繡					0	0	12	
理 髪					16~50才	0	0	35
ビル管理, 清掃	ESTR	18~45才	4 週間	2時間/日 5日/週	0	0	60	
食物サービス					0	0	29	
ホテル/モー テルサービス					0	0	18	
小 計	17プログラム					11クラス	442人	8,595人

表 2-1-4b (3)

訓練内容	プログラム名	実施 ボランティア名	対象年齢	期 間	時間数/日 日数/週	現在の クラス数	現在の 訓練生数	卒業生数 累 計
社会文化 教 育	ギ タ ー	SALVATION ARMY	7~60才	4週間	1時間/日 5日/週	0	0	2,550
	ウクレレ					0	0	4,169
	タンブリン					0	0	1,867
	音 楽		0			0	3,118	
	ダ ン ス		15~60才			0	0	2,465
	絵 画		7~60才			0	0	356
その他の 訓練活動	家庭医学	PNRC	16~45才	2週間	2時間/日 6日/週	0	0	1,174
	救求処置				10時間/日 5日/週	0	0	1,330
	母子教育	WRC	全ての主婦	12週間	1時間/日 3日/週			
	医療補助 教 育	CMHS	23~50才	8週間	4時間/日 6日/週	0	0	50
	女子教育	MCS	16~55才	6週間	5時間/日 10日/週	10	132	161
小 計	11プログラム					10クラス	132人	17,240人
合 計	39プログラム	13 団体				334クラス	5,093人	115,051人

2. 医療サービスの現状

難民の健康管理のためPRPCのHealth Service Groupと各ボランティアグループとの協同体制で、予防活動（マラリア対策、環境浄化、予防歯科）、治療活動（内科・歯科指導相談と外来治療、入院治療）の他に、施薬、X線撮影、婦人科、一般治療などの活動を行っている。

医師、看護婦、技師等の数は下記の通りである。

病院長兼外科医	1名	
麻酔医	1	（パートタイム）
内科医	1	
産婦人科医	1	
一般医	3	（研修医を含む）
歯科医	1	
歯科助手	1	
看護婦	19	
助産婦	1	
O.R.技師	1	
医療専門家	1	
薬剤師	2	
公衆衛生専門家	1	
衛生検査技師	1	
供給係助手	1	
管理業務助手	1	
雑 役	7	
秘 書	1	

協同ボランティアグループとその活動はCommunity Mental Health Service Group（CMHS）が健康相談、Intergovernmental Committee for Migration（ICM）が医療処置、World Relief Corporation（WRC）、Philippine National Red Cross（PNRC）、Caritas Manilaが母子健康相談、Population Commissionが家族計画、PNRCが応急処置と救急補助等の分野で、それぞれ協同して活動を行っている。

施設は病院が鉄筋コンクリートとコンクリートブロックによる平家の建物で、50床の病室（実状は30床内外）を有し、他に一般外科、産婦人科、X線、検査室、小児科、薬局、内科診療、分娩、歯科診療等の部門からなり、病院の他には集団検診所（フェーズI、1棟）、内科診療所（フェーズI、1棟）と歯科診療所2ヶ所（フェーズI、1棟と病院内）がある。

機材・備品の類はきわめて貧弱で、病院以外にはほとんど医科・歯科用機材は見当らず
病院においてもその機材レベルは日本の多くの一般開業医以下である。

フィリピン共和国到着時点で、難民の多くはすでに何らかの医療サービスを必要としている。
PRPCの病院でまとめたデータ(表2-1-4c)によれば、総患者数から見て難民人口の60
%以上が何らかの病気を持っていると判断できる。歯科診療においても難民人口の50%以上
に対し何らかの診療活動を行っている。

救急診療では難民人口の30%近くの取り扱い実績を示めている。薬局はその利用率の高さ
が現状の活動状況を示めているといえる。

こうした状況を踏まえ、更に30%以上の難民が貧血症であり、同じく30%以上は皮膚病、
又、寄生虫保持者も多く、視力に問題をかかえる難民も多いこと、周辺地域住民を含めてマ
ラリアの陽性反応率も無視できないこと、聴力については検査機材が無いため実態の把握す
らできないこと等を考え合わせると、現状のスタッフ数、施設・機材レベルでの医療サービ
ス活動には限度があることは明白である。

外 来 数

1. 病 院

表 2-1-4c 年間データ

(1982)

	合 計	難 民	スタッフ	モロン住民
1. 外来問診	37,627	31,122	440	6,060
2. 歯科診療	7,795	6,119	187	1,489
3. 検 査	11,046	5,399	1,172	4,675
マラリア検査	1,804	977	111	806
陽性反応数(マラリア)	360	113	15	232
4. X-RAY 検査	1,214	759	153	302
5. 産婦人科	1,451	1,182	23	246
6. 内 科	1,740	1,497	21	222
7. 小 児 科	1,485	1,198	28	259
8. ファミリー計画(避妊実行者)	45	45	—	—
9. 救急診療	5,292	3,255	233	1,804
10. 身体検査(新入難民)	21,843	21,843	—	—
11. 他病院へ診療依頼	184	176	—	8
12. 一般検査(スタッフ)	97	—	97	—
13. 薬 局	98,174	85,437	762	11,975
14. 入院患者数	2,040	1,369	57	608
15. 総患者数	10,389	7,348	202	2,839
16. 入院産児数	431	376	12	37
17. 総産児数	892	824	22	46
18. 出産数(院内)	427	369	17	41
19. 手 術(大/小)	188	21/133	4/1	2/27
20. 人工妊娠中絶	57	33	1	23
21. 他病院への入院数	51	51	—	—

2. 医科・歯科診療所—フェーズ I

外 来 数

合計 25,792

2-1-5 難民動向

PRPCにおけるこれまでの難民の動向は概略下記の通りである。

1. 被救済処置者合計 85,339人
(1980年1月~1982年11月)
 - 内訳 ベトナム難民 45,071
 - カンボジア難民 26,328
 - ラオス難民 13,940
2. 出生者合計 1,335人
(1980年2月14日~1982年10月29日)
3. 死者数合計 88人
(1980年2月1日~1982年10月27日)
4. 出生者を含む被救済処置者合計 86,674人
5. 救済処置者終了者合計 77,402人
(1980年2月~1982年10月31日)
6. 受入国及び出身国別人数

受入国	出身国			
	ベトナム	カンボジア	ラオス	計
米 国	37,072	27,267	14,002	78,341
西 ド イ ツ	2,413	1	4	2,418
ノ ル ウ ェ ー	472			472
カ ナ ダ	32	7		39
オーストラリア	9	17		26
ニュージーランド	7	11		18
ス イ ス	11	5		16
フ ラ ン ス	12	16	1	29
英 国	9			9
オ ラ ン ダ	5			5
ベ ル ギ ー	1			1
デ ン マ ー ク	5			5
コ ス タ リ カ	1			1
イ タ リ ー	2			2
イ ン グ ラ ン ド	2	1		3
計	40,053	27,325	14,007	81,385

2-2 既存施設の概要

2-2-1 既存施設計画の概要

1. 全体計画

約300ヘクタールの土地がフィリピン共和国政府により提供されている。この敷地は、PHASE IとPHASE IIおよびCENTRAL AREAに分けられ、難民17,000人とPRPCおよび各ボランティアグループのスタッフとを受け入れられるように計画された。

- ① 道 路 : アスファルト舗装道路 延 7.97 km
砂利舗装道路 延 2.27 km
- ② 電気施設 : National Power Corporation (NPC) が供給する 13.8KVA の通常電力の他に非常用発電機 3 台所有。
- ③ 給水施設 : 深井戸 12 本 (合計能力 2,100 トン/日)
給水管総延長 20.48 km
給水栓総数 2,456 箇所
- ④ 排水施設 : 排水溝約 20.48 km と延約 8 450 m の汚水排水管
汚水は中央処理施設に集められる。
- ⑤ 情報網・交通 : 管内専用電話 50 回線
ラウドスピーカーによる管内放送 10 箇所
小型乗客バス (ジブニー) 10 台、他にトラック、消防車など 11 台

2. 個別計画

- ① 公共施設 : 教育訓練用教室棟 40 棟 木造平家建て
病院 (50 床) 1 棟、鉄筋コンクリート+コンクリートブロック造平屋建て
診療所 2 棟 鉄筋コンクリート+コンクリートブロック造平屋建て
集団検診所 1 棟、管理事務所 1 棟、スタッフ用集会所 1 棟、
- ② 難民住居 : 難民住居 285 棟、木造平家建て
10 家族/棟、且つ 1 家族は 9 人として計画されている。
1 家族あたりの広さは簡単な中 2 階を含め約 20~25㎡で、
形ばかりの調理場と睡眠場所とからなっている。
スタッフ用寄宿舍 52 棟 木造平屋建て (14 人/棟 計 728 人)
スタッフ用小型宿舍 16 棟 木造平屋建て (4 人/棟 計 64 人)

- ③ 便所・シャワー : 共同施設となっており、各難民居住区(4~5棟)毎に1ヶ所ずつ計71ヶ所の共同洗濯・洗面・シャワー棟と便所棟がそれぞれ設置されている。
- ④ そ の 他 : 食料倉庫、乾物一般倉庫、マーケット(3)、郵便局、消防署、仏教寺院、カトリック教会、図書室、アセンブリーホール(3)、食料集配所(10)、拘留施設

上記はPRPC開所時点における施設計画概要である。現状では経年変化、維持管理、使用方等に起因した故障、性能低下、汚染等も見受けられる。そのため、本拡充計画に対し最も基本的な影響を与えかねないインフラストラクチャの現状と関連する既存施設について特に現地調査を行い、次の項にその結果をまとめた。

2-2-2 主な既存施設概要表

1. 教育訓練関係

施設名/位置	規模・構造	外部仕上げ	内部仕上げ	既設機材
実習用食堂、調理場 /中央地区	木造平屋建 食堂 300㎡ 調理場 140㎡ 便所 40㎡ 合計 480㎡	屋根：波型スレート 壁：アスベスト板 サッシュ：木造ネット張り	食堂 天井：ナン 壁：木造ネット張り 一部モルタル 床：ビニールタイル 調理場 天井：ナン 壁：繊維板 腰壁：タイル 床：タイル	セルフサービス カウンター テーブル 食器 ジュース類 カセットデッキ 天井付扇風器 厨房機器 湯沸し器 食堂内放送設備
ゲストハウス /中央地区	RC+CHB造 平家建 607㎡	屋根：波型スレート 壁：モルタル サッシュ：アルミ製 ジャロジー	天井：ベニヤベンキ 壁：モルタル 床：フロリングプロ ック	調理場：流し、オープン ラウンジ：冷蔵庫、椅子、テーブル 客室：ベット、椅子、シャワー 天井付扇風器 ロビー：椅子、テーブル、天井付 扇風器 食堂/会議室：椅子、テーブル 図書室：タイプライター、VTR オーバーヘッドプロジェクタ
管理棟/中央地区	RC+CHB造 平家建 1,134㎡	屋根：波型スレート 壁：モルタル サッシュ：アルミ製ジャロジー	天井：ベニヤ 壁：モルタル、ベニヤ 床：モルタル	一般事務用機材、会議室 床置型扇風器 無線設備(マニラNHA↔PRPC) 構内電話交換機 タイプライター コピー用機材
教育施設/構内全般	木造平家建 40棟 1棟 6m×27m=162㎡ 162㎡×40棟=6,480㎡ 1教室面積 イ 6m×4.5m=27㎡ ロ 6m×9m=54㎡	屋根：波型スレート 外壁：アスベスト板 サッシュ：木製ジャロジー	天井：ナン 壁：ベニヤ 床：モルタル	黒板 訓練用器材 学生用ベンチ、椅子 教室として計画されたもの以外に 難民住居を改造し教室にしたもの が多く機材と共に施設として整備 されていない。
有線放送設備 /フェーズI	フェーズI、NBHD4集会所内にフェーズI地域向けの設備がある。	—	—	放送設備、スピーカー設備などあるが故障しており、現在使用されていない。
スタッフ用宿舍 /中央地区	イ. 寄宿舎 52棟 1棟7.5m×20m=150㎡ 150㎡×52棟=7,800㎡ ロ. 小型宿舍 16棟 1棟7m×5m=35㎡ 35㎡×16棟=560㎡ 合計7,800+560=8,360㎡	屋根：波型スレート 外壁：アスベスト板 サッシュ：木製ジャロジー	天井：ベニヤ 壁：ベニヤ 床：モルタル	リビングルーム 台所セット、冷蔵庫 テーブル、椅子 ベッドルーム スチールベッド及びマット
車 輛	—	—	—	職員用ジブニー 10台と難民用バス、トラック、消防車など 11台

2. 医療サービス関係

施設名/位置	規模・構造	外部仕上げ	内部仕上げ	既設機材
集団検診所(医科のみ)/フェーズI	木造・平家建 219㎡ 検診所部分 15㎡程度	屋根:波型スレート 壁:アスベスト板 サッシュ:ジャロジー	天井:ナシ 壁:ベニヤ 床:モルタルベンキ	
医科診療所 歯科診療所 /フェーズI	医科:CHB造、平家建 354㎡ 歯科:CHB造、平家建 20㎡	屋根:波型スレート 壁:モルタル サッシュ:ジャロジー	天井:ベニヤ 壁:モルタル 床:モルタルベンキ	机、椅子、タイプライター 医科 聴診器、血圧計、医薬品 歯科 治療ユニット、X線 滅菌器
病院/中央地区	RC+CHB造 平家建 2,088㎡	屋根:波型スレート 壁:モルタル サッシュ:ジャロジー	天井:ベニヤ、繊維板 壁:モルタル 床:モルタル ビニルタイル	外来:机、椅子、診察台 薬局:机、椅子、薬品棚 中央診療 :X線(一般撮影用) 顕微鏡、速心分離器 血液保蔵庫 手術:手術台(2台)、 無影灯 麻酔器、電気メス 中央材料: シンメル消毒器(中型) 病室:ベッド、サイドテーブル 小児ベッド ポータブルX線 救急:ストレッチャー2台 麻酔器 下肢用診療台 酸素ポンプ
倉庫/フェーズI	RC+CHB造 平家建 400㎡ (80㎡を医薬品倉庫として改築する。)	屋根:波型スレート 壁:CHBあらわし サッシュ:ジャロジー 木製ルーバー	天井:ナシ 壁:CHBあらわし 床:モルタル	大型木製棚 多種類の予備品、機材などの保管 施設として利用されている。
救急車				1台あるが救急車としての設備が 不十分で、医療スタッフの移動用 として利用されている。

2-2-3 インフラストラクチャの現状

1. 電 力

Morong Substation を経て PRPC 敷地内に別図のように 13.8kV, 3 ϕ , 60Hz の高圧供給ラインが敷設されている。当地の電気事業者は National Power Corporation (NPC) である。各施設には適当な単位で電柱に設置された降圧トランスを経た低圧 (230~240V) ラインからそれぞれ引込みが行われている。PRPC 全体での電力消費量は 2,688,000 KWH / 年 (1982 年実績) であった。又停電に対応できるよう敷地内に 455KW \times 2 基の発電機設備が用意されており、更に病院専用 50KW の発電機も設置されている。今回計画の各施設への電力供給は現存の供給ラインの中でまかなえると考えられる。

2. 給 水

PRPC 全体として PHASE I、PHASE II の 2 系統で深井戸 (計 12 本 (うち 2 本使用不能) で合計揚水可能量 184 ton/Hr)、受水槽 (900 ton \times 2 基)、高置水槽 (PHASE II のみ 190 ton)、及び供給配管による中央供給が行われている。これらの容量関係からは十分な供給能力があると考えられるが難民居住区に対しては乱用防止の為との説明による時間給水が行われている。従って今回計画される難民居住区内の施設に対しては貯水槽の設置、又は 24 時間給水ラインからの延長接続等の考慮が必要と思われるが供給量は充分であると考え。現存の給水系統については別図に示す。

3. 排 水

排水施設についても PHASE I、PHASE II の 2 系統で全体的に別図のように集中排水処理が行われており、排水処理法も長時間曝気法による。

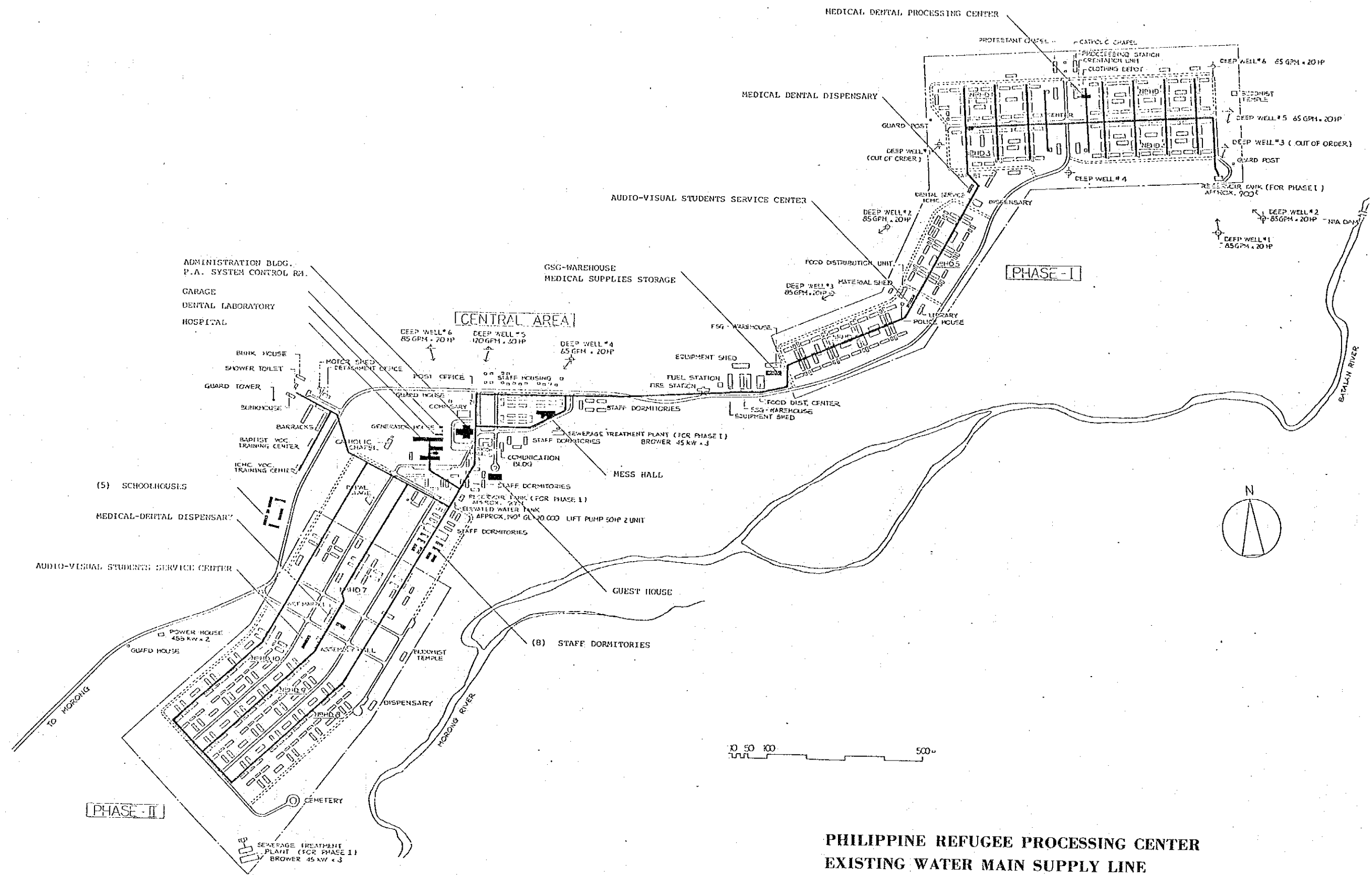
各処理槽は全体で 34m \times 9m \times 3mH の大きさを持っており、約 1/2 ずつの割合で曝気槽、汚泥貯留槽からなっており 45KW のプロアー 3 台を付属している。屋外排水管系統は難民居住区内で一部の勾配不良、排水器具の使用の不備及び維持管理上の不適切さなどから排水不調の箇所も見受けられた。今回の計画に関しては上記の点についての改善措置が当然行われ得るものと考えられ、又集中排水処理装置の観測から能力的にも充分であると考えられることから既存の集中排水処理系へ接続放流するものとする。

4. 電 話

PRPC敷地周辺への外線の引込みはなく、構内内線電話が設置されている。今回の計画施設に対する電話の増設に対しては既存交換機(100回線の内、50回線を現在使用中)は十分な予裕を持っている。尚外部との通信は無線通信によっており、マニラのNHA(National Housing Authority)との連絡はひんぱんに行われている。

5. ガ ス

所要の施設毎にLPGポンペを設置している。



**PHILIPPINE REFUGEE PROCESSING CENTER
EXISTING WATER MAIN SUPPLY LINE**

2-3 計画の内容

1. 教育訓練関係 : 流出したインドシナ難民を投げ上げ、必身ともに健康で最終定住国での生活を可能ならしめるための施設・機材

① 視聴覚・学生サービスセンター

施設 : 視聴覚教室、登録事務室、指導室、テスト室、暗室、その他の新築(2棟)、延570㎡

機材 : 視聴覚機材、事務機材、暗室用機材、その他

② 実習用食堂

施設 : ファストフード、ベーカリー、事務室、売店を含む増築と厨房を含む一部既存施設の改築、延283㎡

機材 : 厨房機材、ファストフード、ベーカリー、売店用機材、厨房事務機材、その他

③ ゲストハウス

施設 : 厨房、食堂、宿泊室、ラウンジ、ロビーを含む既存施設の改築
延480㎡

機材 : 厨房機材、宿泊室用機材、ハウスキーピング機材、事務機材、その他

④ スクールハウス

施設 : 初歩職業訓練(給仕、雑役、ベッドメイキング、庭師、ビル管理、キャッシャー)用教室棟の新築、延900㎡

機材 : 上記初歩職業訓練用機材、その他

⑤ 中央放送設備

施設 : 既存管理棟内の電話交換機室一部を本設備用に改築、延25㎡
他に敷地内屋外配線

機材 : 放送設備機材、スピーカー、その他

⑥ スタッフ用宿舎

施設 : 各14人用(2人/1室)宿舎の新築(4棟)、延600㎡

機材 : ベッド等寝具、厨房機材、その他

⑦ 初歩職業訓練部門用事務機材

機材 : 視聴覚機材、事務機材、その他

⑧ 車 輜

機材 : 難民用バス4台、スタッフ用小型バス(12人乗り)2台

2. 医療サービス関係：非健康な状態の多い難民の健康管理に当たり、最終定住国の健康水準を確保させるための施設・機材

① 医科・歯科集団検診所

施設：受付、検査室、医科・歯科診察室、記録室、その他を含む新築
延 243 m²

機材：医科・歯科用検査・診察機材、その他

② 医科・歯科診療所

施設：診察室、治療室、歯科治療室、医師室、暗室、薬局その他を含む新築
(2棟)、延 676 m²

機材：医科・歯科機材、その他

③ 病院

施設：既存施設内の検査室、物療室、解剖室、手術室、救急室、薬品庫、眼科、耳鼻咽喉科、その他の移設・改造に伴う改築、延 762 m²

機材：検査機材、救急機材、眼科・耳鼻咽喉科機材、物療機材、その他

④ 歯科技工所(病院附属)

施設：診療室、技工室、その他を含む新築、延 105 m²

機材：診療機材、技工用機材、その他

⑤ 救急車及び車庫

施設：車庫の新築 延 48 m²

機材：救急車 2 台

⑥ 医薬品倉庫

施設：既存倉庫棟内一部を医薬品倉庫として改築 90 m²

機材：保存用冷蔵庫、収納棚、その他

⑦ スタッフ用宿舍

施設：各 14 人用(2人/1室) 宿舍の新築(4棟)、延 600 m²

機材：ベッド等寝具、厨房機材、その他

第三章 基本計画

3-1 基本方針

3-1-1 基本計画

基本計画にあたっては、インドシナ難民定住問題の一環としての特殊性を踏まえて実質を重視し、機能を優先した計画とする。即ち、本計画の施設・機材は難民と、難民に日々直接接している各ボランティアグループのスタッフが真に必要としている範囲と程度を把握、設定し、あくまで現状を大きく超えたものとしたり、周辺住民の感情を逆なでしかねないような計画はこれを排除する。

PRPCの目的は、インドシナ難民が各々の最終定住国に入国し、そこで新しい生活に出發するための準備を支援することにある。この目的のための支援活動として、日々の食料の調達・確保・支給をはじめ、健康診断・診察・診療を含む医療サービスや、個々に自信とゆとりを取り戻させるための社会・文化・教養活動、新しい土地での生活に備える語学・職業の教育訓練などの多彩なプログラムがPRPCと各ボランタリーグループとの協力において現在まで実施されている。

その体験から心身ともに虚脱状態にあることの多い難民にとって先ず必要なことは、心と体の健康を取り戻すこと、そして今後の生活のための能力を養うことである。従って、食料確保、各種教育訓練、医療サービスの三つはPRPCの目的に沿った基本的活動である。それらの内、食料確保についてはUNHCRの財政負担のもと、地元モロン住民の積極的な協力が得られているが、教育訓練と医療サービスの面における支援活動の現状は、PRPCおよび協力ボランティアグループが熱意溢るる努力をしているものの、施設・機材・人材ともに質量両面において甚々しく貧弱であると言わざるを得ない。

こうした現状と、インドシナ難民の再出發という人道的見地とより考えて、教育訓練関係の施設・機材、医療サービス関係の施設・機材の早急な充実ということは極めて妥当なことであり、本拡充計画における施設と機材の計画はこの妥当性に乗ったものともする。

3-1-2 費用分担

1. 日本政府側分担項目

- ① 本基本計画に明示されている施設の計画、工事並びに機材の計画、製作、運搬、据付、試運転
- ② 本基本計画に含まれる範囲の建物内電気工事、同空調換気工事および給排水衛生工事
- ③ 工事に電力・給水使用料

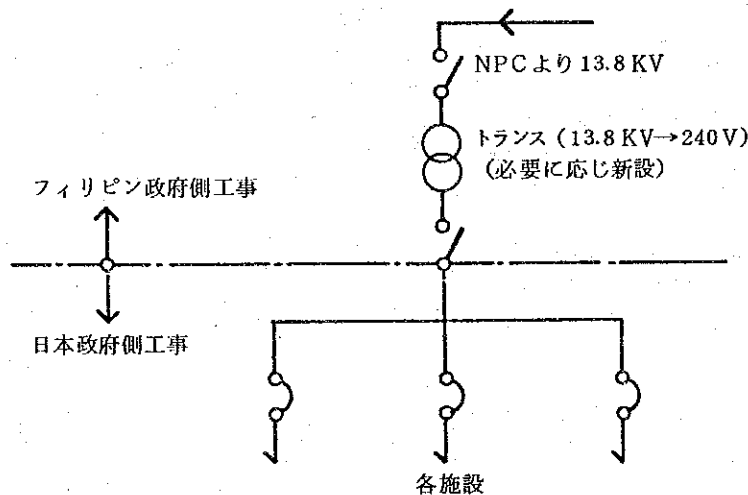
2. フィリピン共和国側分担項目

- ① インフラストラクチャの整備、保守およびそれらの費用
- ② 施設・機材の維持管理、運営、補修およびそれらの費用
- ③ 建物外の電気工事、空調換気工事および給排水衛生工事
- ④ 工事に用いる電力、給水使用料
- ⑤ 既存施設内の既存機材、家具等の移動
- ⑥ 外構施設、造園、構内道路、フェンス等の工事

なお、詳細については今後さらにフィリピン共和国側との協議が必要である。

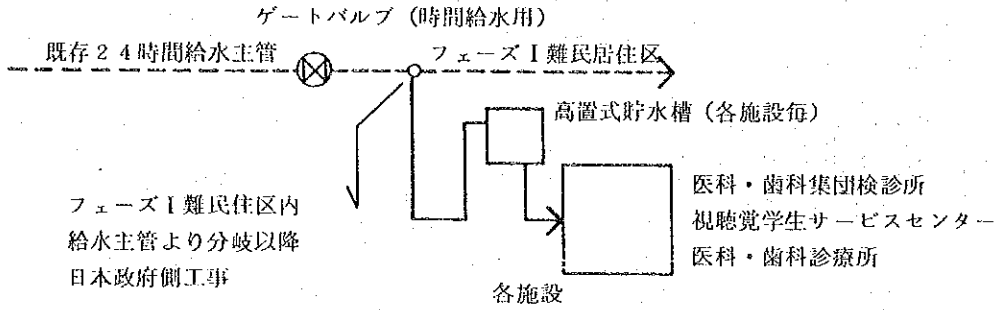
3. インフラストラクチャの工事区分

① 電気工事

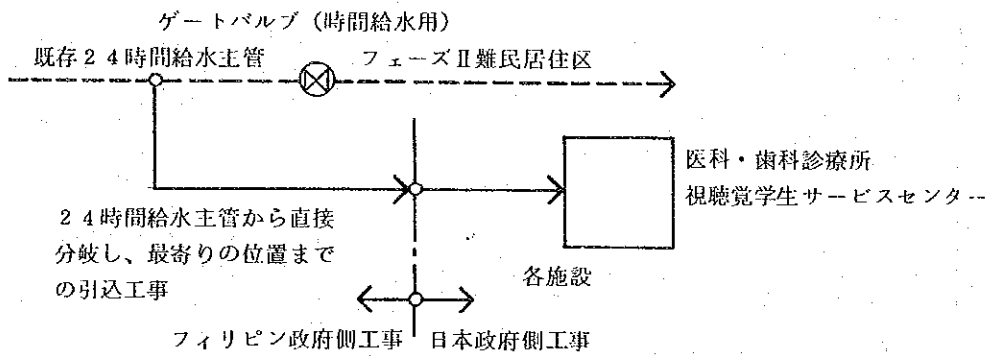


② 給水工事

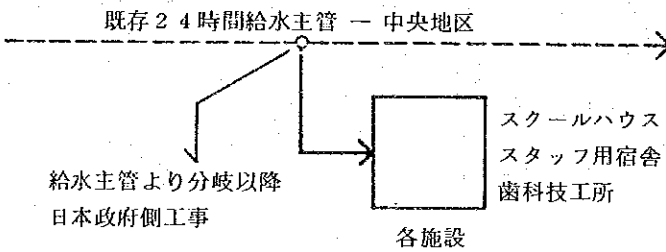
1. フェーズⅠ（時間給水対策が必要）



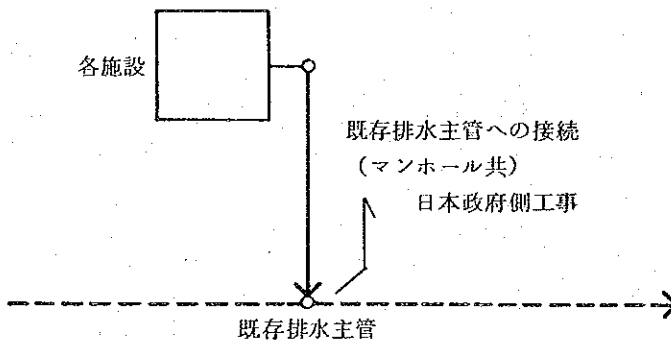
2. フェーズⅡ（時間給水対策が必要）



3. 中央地区



③ 排水工事



3-2 施設計画概要表

1. 教育訓練関係

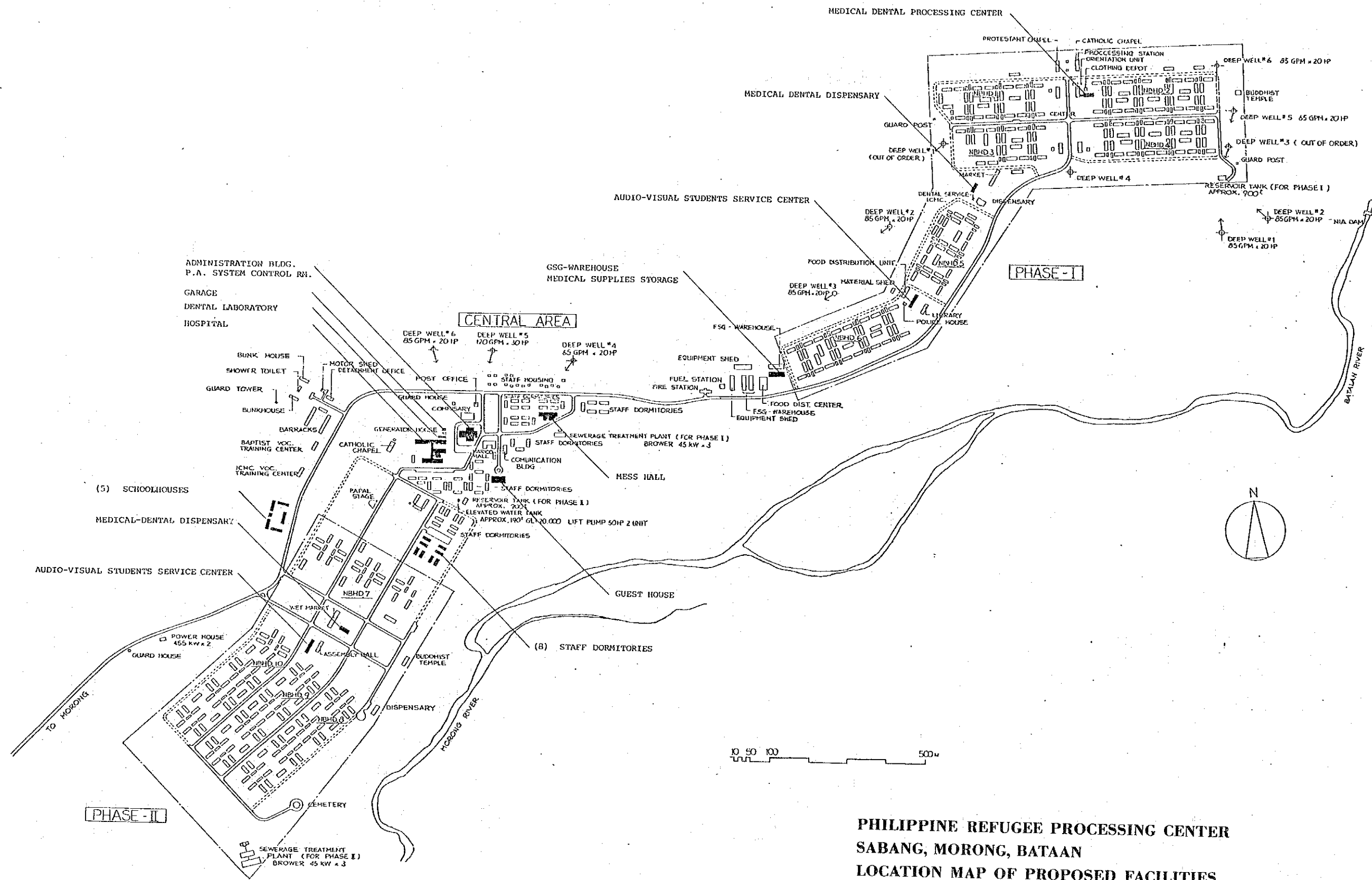
施設名、位置	種別、面積	構造	外部仕上げ	内部仕上げ	機材	備考
視聴覚・ 学生サービス センター 2棟 フェーズⅠ1棟 フェーズⅡ1棟	新築 285㎡×2棟 フェーズⅠ 285㎡ フェーズⅡ 285㎡ 合計 570㎡	木造平家建	屋根：波型スレート 壁：アスベスト板 サッシュ：ジャロジー	天井：ベニヤ張り 壁：ベニヤ張り 床：モルタル	視聴覚教育用機材 学生センター用事務機材 写真教材製作用機材 (フェーズⅠのみ)	写真現像施設及び 高架水槽はフェーズⅠのみに設ける。
実習用食堂 中央地区	新築 203㎡ 改築 80㎡	木造平家建	屋根：波型スレート 壁：アスベスト板 サッシュ：ジャロジー	天井：ベニヤ ペイント 一部アスベスト ペイント 壁：ベニヤ ペイント 一部タイル貼り 床：モルタル ペイント	厨房機材 売店機材 食堂事務機材 食器 天井付扇風器 パン製造機材 フットフード機材	既存食堂木造480㎡の厨房改築と増築
ゲストハウス 中央地区	改築 479.4㎡	—————	—————	天井(既設ベニヤ) 壁(既設モルタル) 床(既設フローリング) ブロック 一部カーペット	厨房機器 客室用家具 空調器 (ウインドクーラー) 造付棚 清掃機材 食器、食堂用家具 天井付扇風器	既存建家 RC+CHB 平家建 607㎡ の改築
スクールハウス 中央地区 5棟	新築 教室棟 162×4棟=648㎡ 189×1棟=189㎡ 小計 837㎡ 便所棟 63㎡ 合計 900㎡	木造平家建 CHB 平家建 (便所棟)	屋根：波型スレート 壁：アスベスト板 サッシュ：ジャロジー 防犯グルル付	天井：ベニヤ張り 壁：ベニヤ張り 床：モルタル	給仕サービス(9クラス) 雑役 (9クラス) ホテル・モーテル補助 (3クラス) ビル保守管理 (3クラス) レジ打ち (2クラス) 庭師 (4クラス) 6分野、30クラスの職業 訓練に必要な機材	
中央放送設備 中央地区管理 棟内	改築 24.5㎡	—————	—————	天井：岩綿吸音板 壁：有孔ベニヤ ペイント 床：カーペット	放送機材 拡声スピーカー	既存建家(管理棟) RC+CHB平家建 1,134㎡ 電話交換機室の間 仕切り工事も含む
スタッフ用 宿舎 (訓練)	新築 150㎡×4棟=600㎡	木造平家建	屋根：波型スレート 壁：アスベスト板 サッシュ：木製	天井：ベニヤ張り 壁：ベニヤ張り 床：モルタル	ベッド、机、椅子 冷蔵庫 リビング家具 ダイニングテーブル、椅子 食器	医療スタッフ用4棟 を含め8棟を同一 敷地に建設する。 取容 2人/室×28室= 56人
初歩職業訓練 部門事務機材 施設位置未定	—————	—————	—————	—————	事務用機材 机、椅子 コピー キャビネット 発電機(ポータブル) オーバーヘッド プロジェクター スライドプロジェク ター	機材のみ
車 輛	—————	—————	—————	—————	スタッフ用 マイクロバス 2台 難民用バス 4台	全て冷房は不要

2. 医療サービス関係

施設名、位置	種別、面積	構造	外部仕上げ	内部仕上げ	機材	備考
医科・歯科 集団検診所 フェーズI	新築 243㎡	RC+CHB 平家建	屋根：波型スレート 壁：モルタル サッシュ：ジャロジー	天井：ベニヤ 壁：モルタル 床：モルタル ビニールタイル	医科・歯科機材	渡り廊下を含む (27㎡) 高架水槽が必要
医科・歯科 診療所 2棟 フェーズI フェーズII	新築 337.5㎡×2棟 フェーズI 337.5㎡ フェーズII 337.5㎡ 合計 675㎡	RC+CHB 平家建	屋根：波型スレート 壁：モルタル サッシュ：ジャロジー	天井：ベニヤ 壁：モルタル 床：モルタル ビニールタイル	医科・歯科機材	屋外待合部分を含む (125㎡×2) フェーズIには高 架水槽が必要
病 院 中央地区	改築 761.5㎡	-----	壁：モルタル サッシュ： 一部アルミサッシュ に取替	天井：繊維板 壁：モルタル 床：ビニールタイル 一部モルタル ペンキ	検査用機材 救急処置用機材 眼科、耳鼻咽喉科機材 物理療法用機材 医薬品等1年間分	既存建家 RC+CHB 平家建2,088㎡の 改築
歯科技工所 中央地区 病院に隣接	新築 105㎡	RC+CHB 平家建	屋根：波型スレート 壁：モルタル サッシュ：ジャロジー	天井：ベニヤ 壁：モルタル 床：モルタル ビニールタイル	歯科・歯科技工機材	屋外待合部分を含 む(15㎡)
救急車及び 車庫 中央地区 病院隣接	新築 48㎡	木造平家建	屋根：波型スレート 壁：木製ルーバ 床：コンクリート	-----	救急車2台	救急車2台の車庫
医薬品倉庫 中央地区	改築 90㎡	-----	----- 搬入用の上吊り引戸	天井：ナシ 壁：ベニヤ張り 床：ナシ	プレハブ冷蔵倉庫 木製整理棚	既存倉庫 RC+CHB 平家建400㎡の 一部改築
スタッフ用 宿舎 (医療)	新築 150㎡×4棟=600㎡	木造平家建	屋根：波型スレート 壁：アスベスト板 サッシュ：ジャロジー	-----	ベッド、机、椅子 冷蔵庫 リビング家具 ダイニングテーブル、 椅子 食器	訓練スタッフ用4棟 を含め8棟を同一 敷地に建設する 収容2人室/28室 =56人

3. 面積表

建築種別	新 築		改 築	
	木 造	RC+CHB造	木 造	RC+CHB造
訓練施設	2,210 m ²	63 m ²	80 m ²	503.9 m ²
	2,273 m ²		583.9 m ²	
医療施設	648 m ²	1,032 m ²	—	851.5 m ²
	1,671 m ²		851.5 m ²	
合 計	2,858 m ²	1,086 m ²	80 m ²	1,355.4 m ²
	3,944 m ²		1,435.4 m ²	



**PHILIPPINE REFUGEE PROCESSING CENTER
SABANG, MORONG, BATAAN
LOCATION MAP OF PROPOSED FACILITIES**

3-3 建築計画

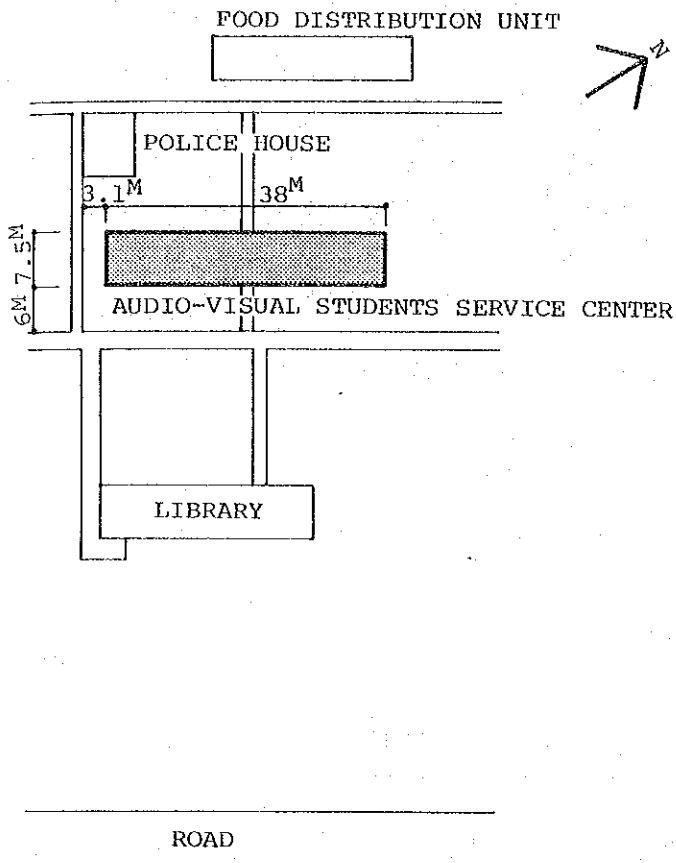
施設の計画においては基本的なモジュール、寸法、平面計画は現状に準拠するものとし、更に、構造、仕上げ、設備の面においても現状との調和を第一義とし、異同は必要最小限とすることに配慮する。

機材計画においても、PRPCの目的に沿ったその機能の拡充に充分で且つ無駄のない計画とする。更に、施設計画・機材計画の相方において、資機材の現地調達を可能な限り考慮し、実質的で機能的な計画の実体化に努める。

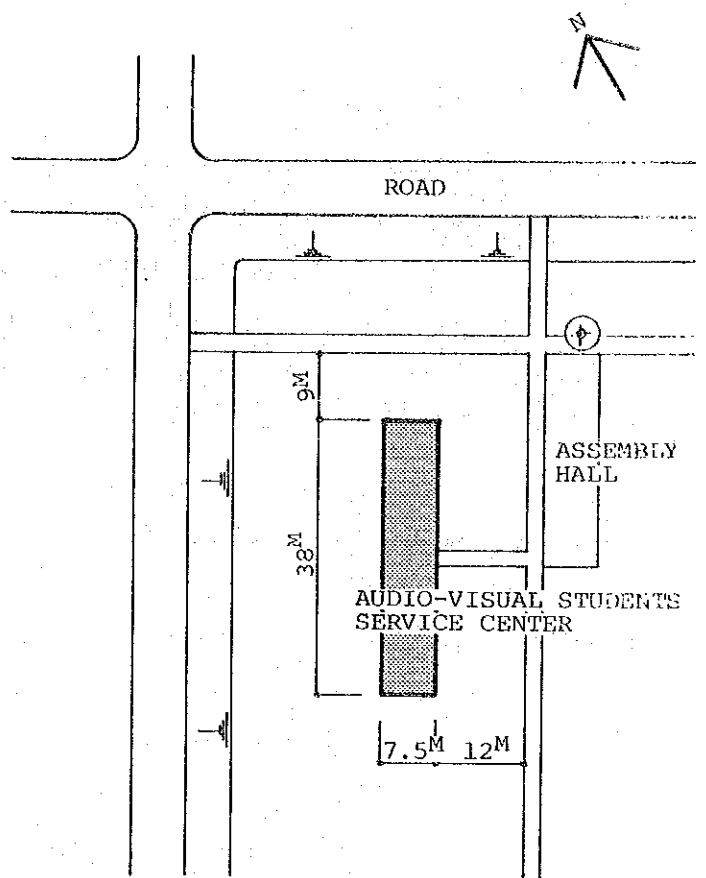
3-3-1 教育訓練関係

1. 視聴覚・学生サービスセンター

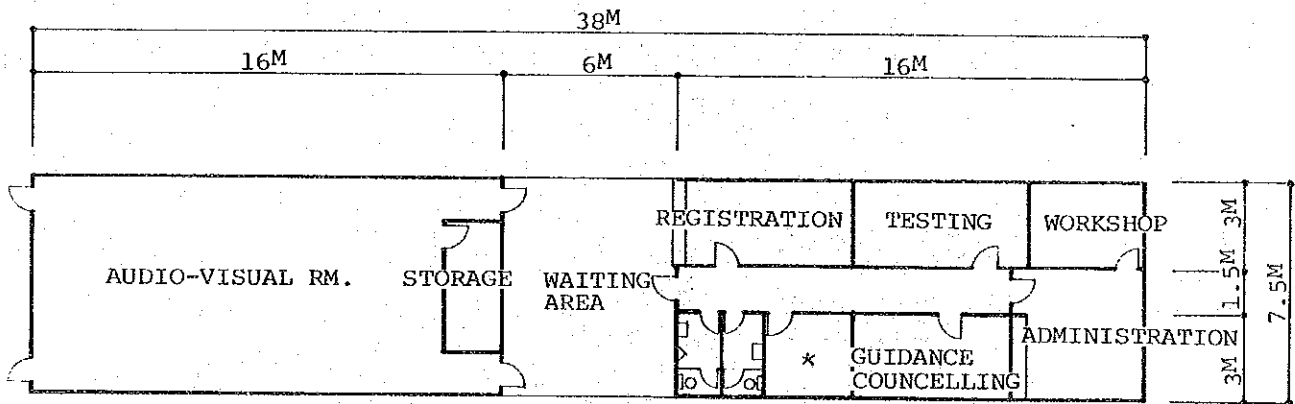
目的・機能	<p>視聴覚センター</p> <p>各種訓練プログラムの実施において、翻訳者(英語—ベトナム・カンボジア・ラオス語)を介しての講義方式の煩雑さ、非効率性、講義内容の不均質、訓練された翻訳者の不足、低い難民の識字率に対処するため、視聴覚設備の利用により効果的なプレゼンテーションを行う。</p> <p>学生サービスセンター</p> <p>難民の各種訓練プログラムへの登録事務、適性検査、個別指導などは現状では個々のボランティア組織で実施されているが、この計画ではそれらを各フェーズ毎に総合的に中央管理し、難民の各プログラムへの参加機会を増進すると共に個々の難民への対応をより密接に行おうとするものである。</p> <p>難民間や各ボランティア間の問題点、苦情等の解決の場としても機能し、より効果的な各種訓練プログラムの運営に役立てる。</p> <p>視聴覚センターと学生サービスセンターは難民の利便のため併設し、フェーズⅠ、フェーズⅡのそれぞれに1ヶ所計2ヶ所に設ける。</p>
管理運営	PRPC-CASSDEGが主体となるが、各ボランティア団体も運営に参加する。
配置	フェーズⅠ、Ⅱに各1ヶ所、計2ヶ所
規模	視聴覚センターは約150名収容の規模とし、学生サービスセンターは訓練対象の全難民の登録事務を各フェーズ毎に約2,500人/月(12日)行える規模とし、同時に適性検査、個別指導などの諸室を設ける。また、フェーズⅡの学生サービスセンターには視聴覚教材を製作する暗室設備を設ける。
構造・面積	木造平家建、285㎡/棟×2棟の新築、延570㎡
機材概要	視聴覚教育機材、事務用機材、暗室機材、その他



SITE PLAN PHASE-I

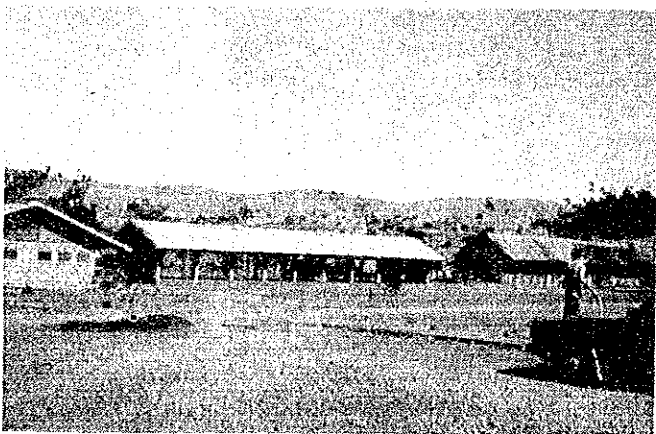


SITE PLAN PHASE-II



PLAN

* AT PHASE-I WORKSHOP
PHASE-II PHOTO LABORATORY



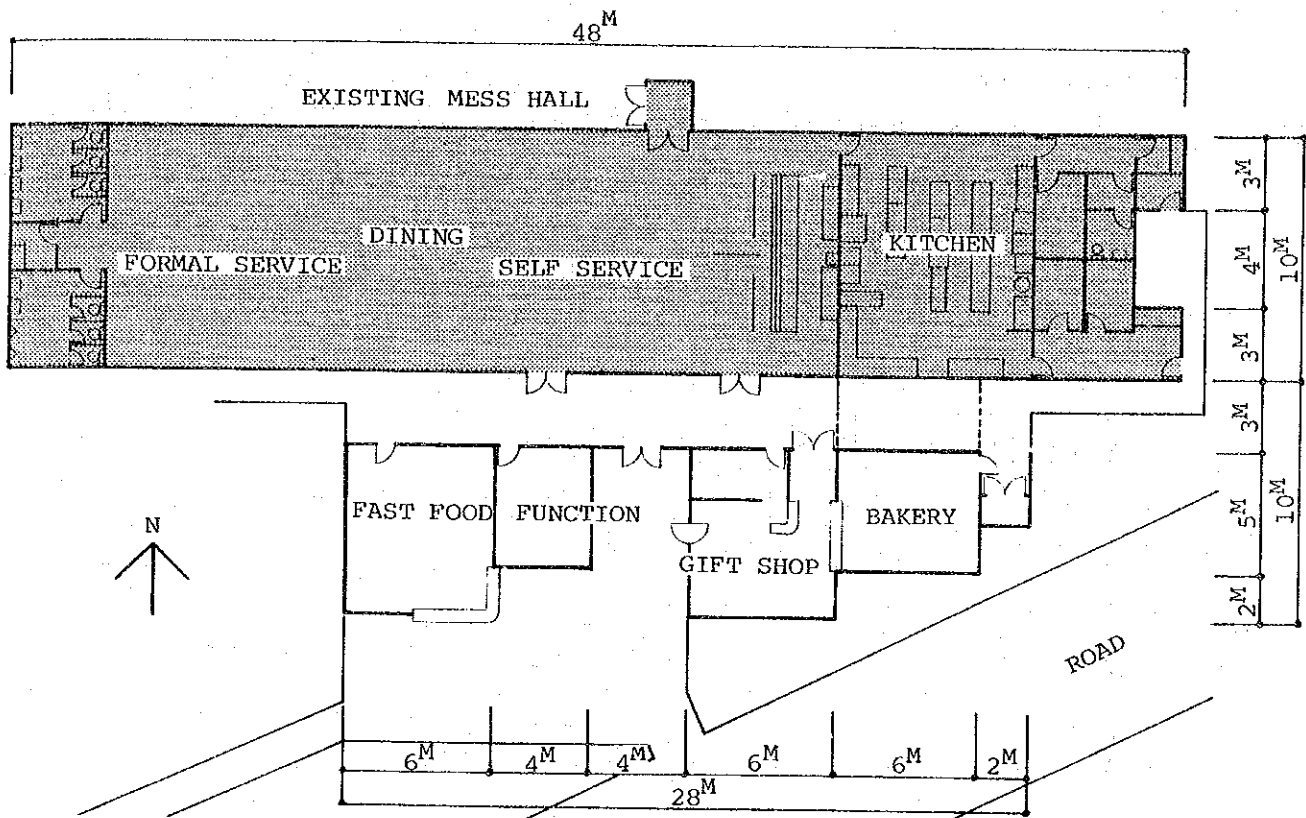
PHASE-I



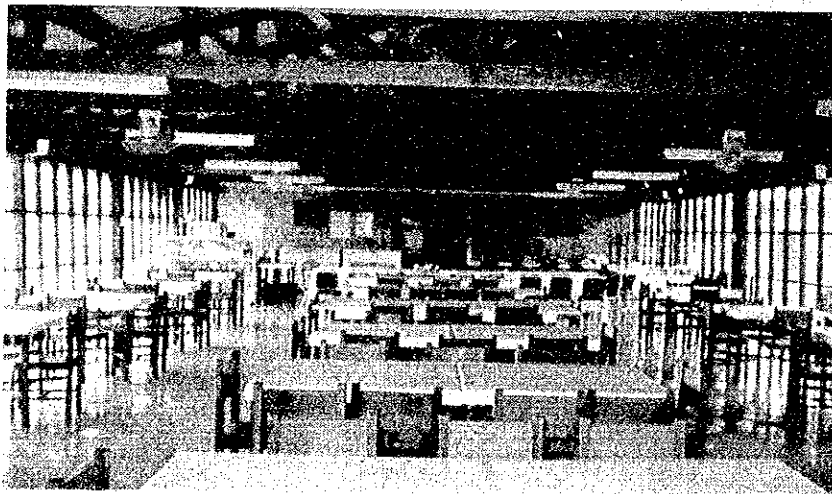
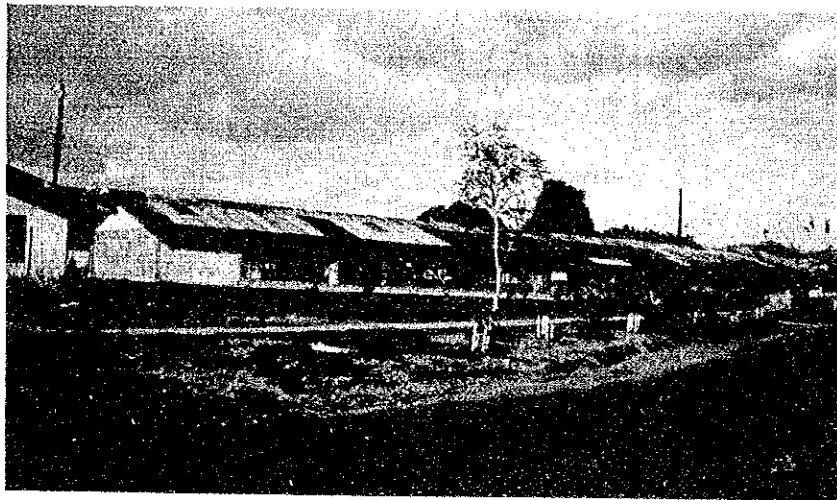
PHASE-II

2. 実習用食堂

目的・機能	現在実習用食堂は、PRPC内のスタッフの食堂として利用されているが、今回既存施設の機能の拡充と、新たなファストフード、ベーカリー、売店、厨房事務室を含む増築により、各訓練プログラム（特に給仕、雑役、キャッシャー等）に参加する難民に実習訓練の場として提供することを目的とする。
管理運営	PRPC-FSG
位置	中央地区、既存実習用食堂
規模	既存実習用食堂（木造平家建、480㎡）への増築と既存厨房の改築
構造・面積	木造平家建、203㎡の増築 既存実習用食堂内の厨房80㎡の改築
機材概要	食堂用家具・什器・備品、厨房機材、ファストフード・ベーカリー・売店用機材、厨房事務機材、その他

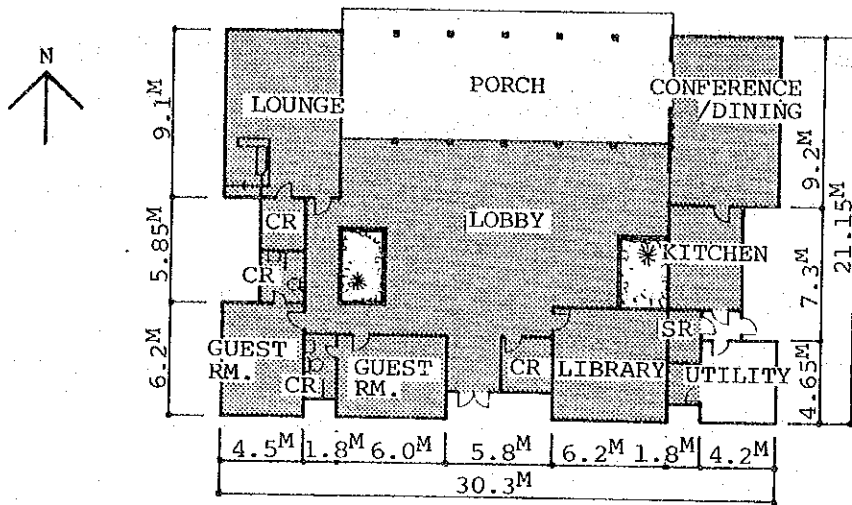


PLAN

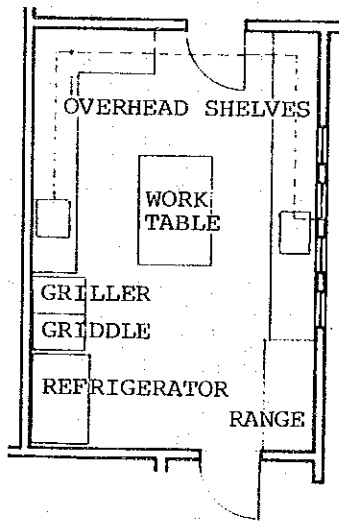


3. ゲストハウス

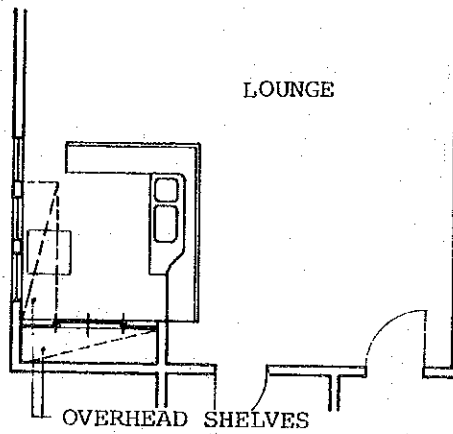
目的・機能	現在ゲストハウスはゲストの宿泊施設として利用されているが、今回既存施設の拡充により、各訓練プログラム（特にホテル／モーテル補助、雑役、給仕など）に参加する難民に実習訓練の場として提供することを目的としている。
管理運営	PRPC-FSG
位置	中央地区、既存ゲストハウス
規模	既存ゲストハウス（RC+CHB造 平家建、607㎡）の改築
面積	ロビー、客室（2室）、食堂／会議室、図書室、厨房、ラウンジの改築と受付事務室（ロビー内）の新設を含む479.4㎡の改築
機材概要	家具・什器・備品、厨房機材、ハウスキーピング機材、事務機材、その他



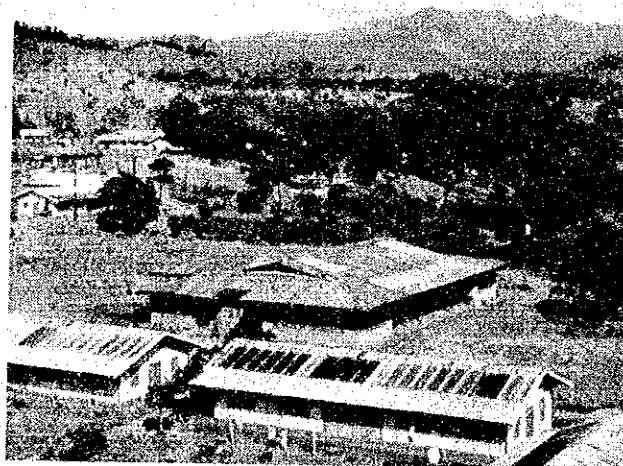
PLAN



KITCHEN PLAN



LOUNGE PLAN



4. スクールハウス

目的・機能 米国を中心とする欧米先進国への定住を目的とする難民に、就業に必要な初歩的職業技術の訓練を行う。

計画の前提

目 標 常時 2,000 人又は年間 18,000 人を対象とする
 対象年齢 16～55 才
 訓練期間 各プログラム共 4 週間
 学生数/クラス 20～22 人/クラス
 時間割 3 交替/日、AM 8:00～10:00, 10:00～12:00,
 PM 14:00～16:00

訓練プログラム	学生構成比率 (%)	学生数 (人)	クラス数	教室数	講師数
1. 給 仕	30	600	27	9	9
2. 清 掃	30	600	27	9	9
3. ホテル/モーテル補助	10	200	9	3	3
4. ビルメンテナンス	10	200	9	3	3
5. キャッシャー	5	100	4	2	2
6. 庭 師	15	300	13	4	4
	100%	2,000 人	90 クラス	30 教室	33 人*

* スーパーバイザー 3 人を含む

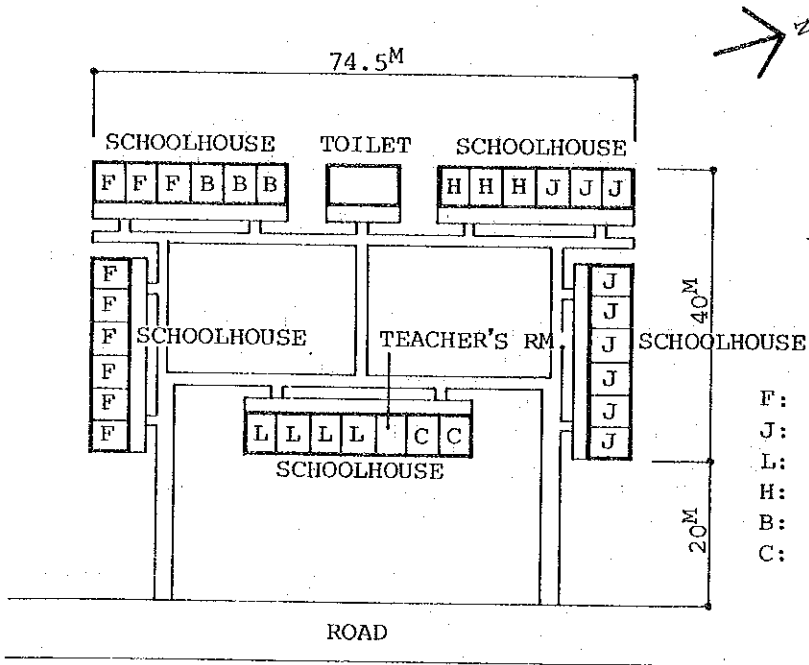
管理運営 PRPC-CASSDEG が主体となるが、ESTR (母体はフィリピン YMCA) が講師、教育カリキュラムの実施を分担する。

配 置 中央地区、ICMC、BRM などのボランティア団体による職業訓練施設に隣接した位置

規 模 6 分野 30 教室の計画規模を 5 棟に分割し、分野別の教室の機能的つながりを配慮した配置とする。教室の大きさ、1 棟の教室数は PRPC 構内の既存の教室棟と同規模とし、4.5 m × 6 m の教室を 6 教室/棟で構成する。また学生用の便所は独立した別棟で設け、講師の会議・休憩室として教室と同サイズの 1 室をそれに当てる。

構造・面積 木造平家建 6 棟 (教室棟 5 棟、便所棟 1 棟) の新築、延 900 m²

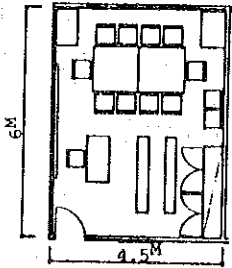
機材概要 初歩的技術訓練 6 分野 30 教室用機材、その他



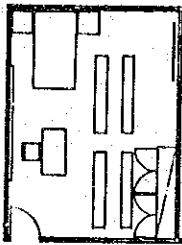
- F: BASIC FOOD SERVICES (9)
- J: JANITORIAL SERVICES (9)
- L: LANDSCAPING/GARDENING (4)
- H: HOTEL/MOTEL AID TRAINING (3)
- B: BUILDING MAINTENANCE (3)
- C: CASHER TRAINING (2)

SITE PLAN

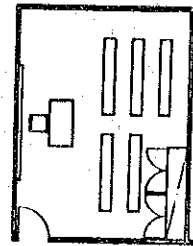
BASIC FOOD SERVICE (9 CLASS)



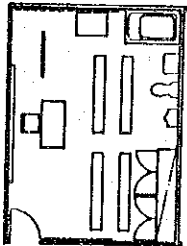
HOTEL/MOTEL AID TRAINING (3 CLASS)



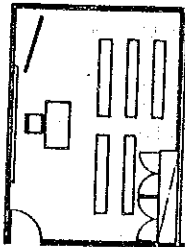
LANDSCAPING/GARDENING (4 CLASS)



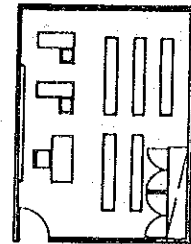
JANITORIAL SERVICES (9 CLASS)



BUILDING MAINTENANCE (3 CLASS)



CASHER TRAINING (2 CLASS)

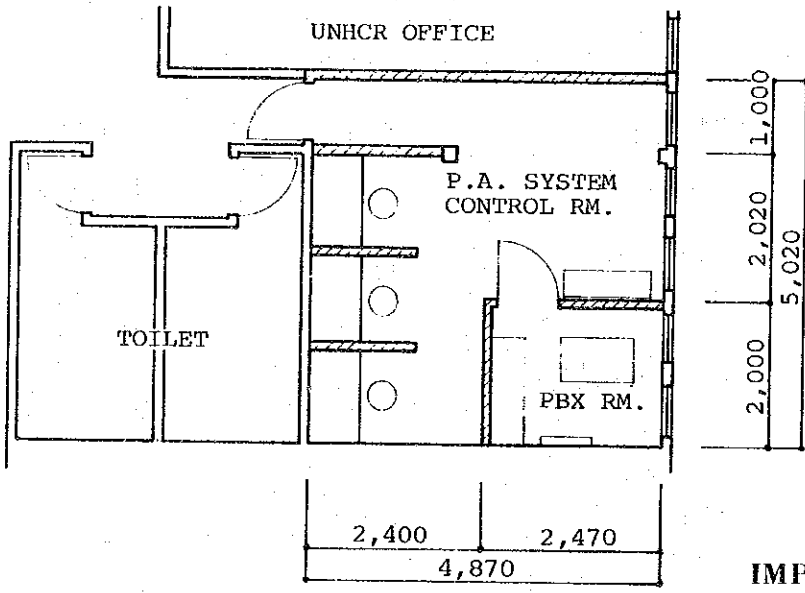
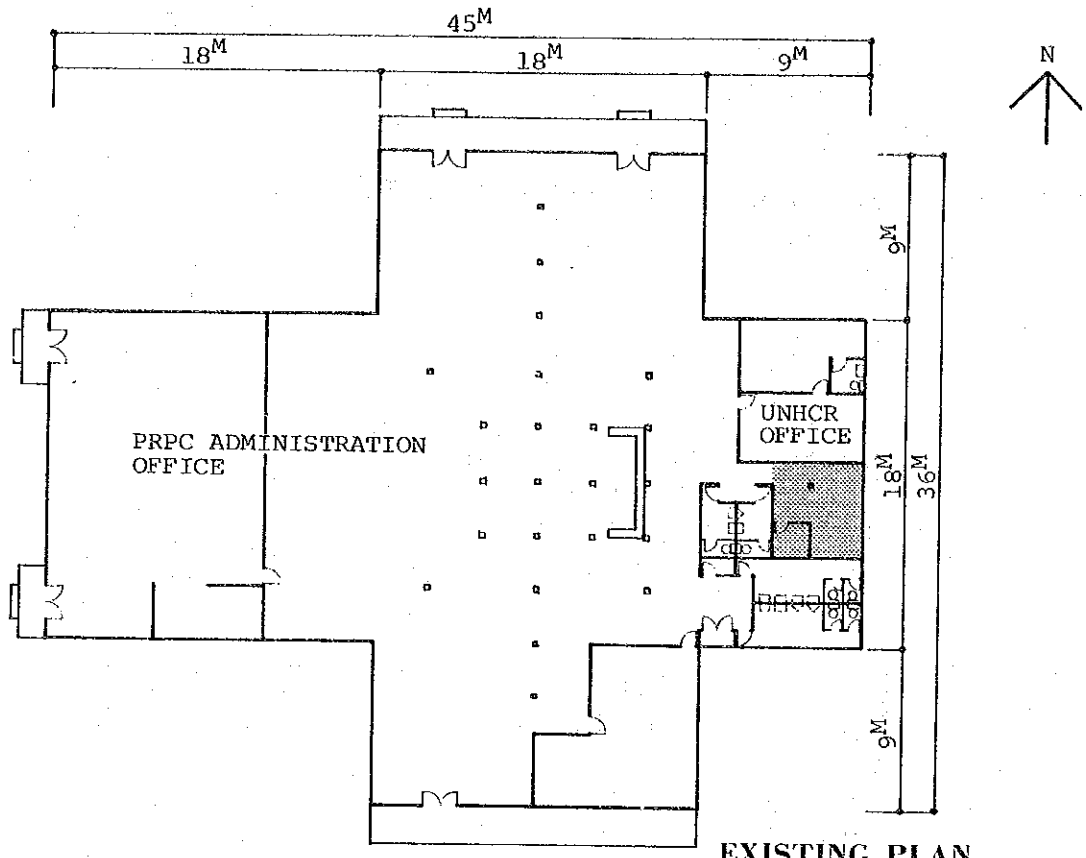


TYPE OF CLASSROOMS



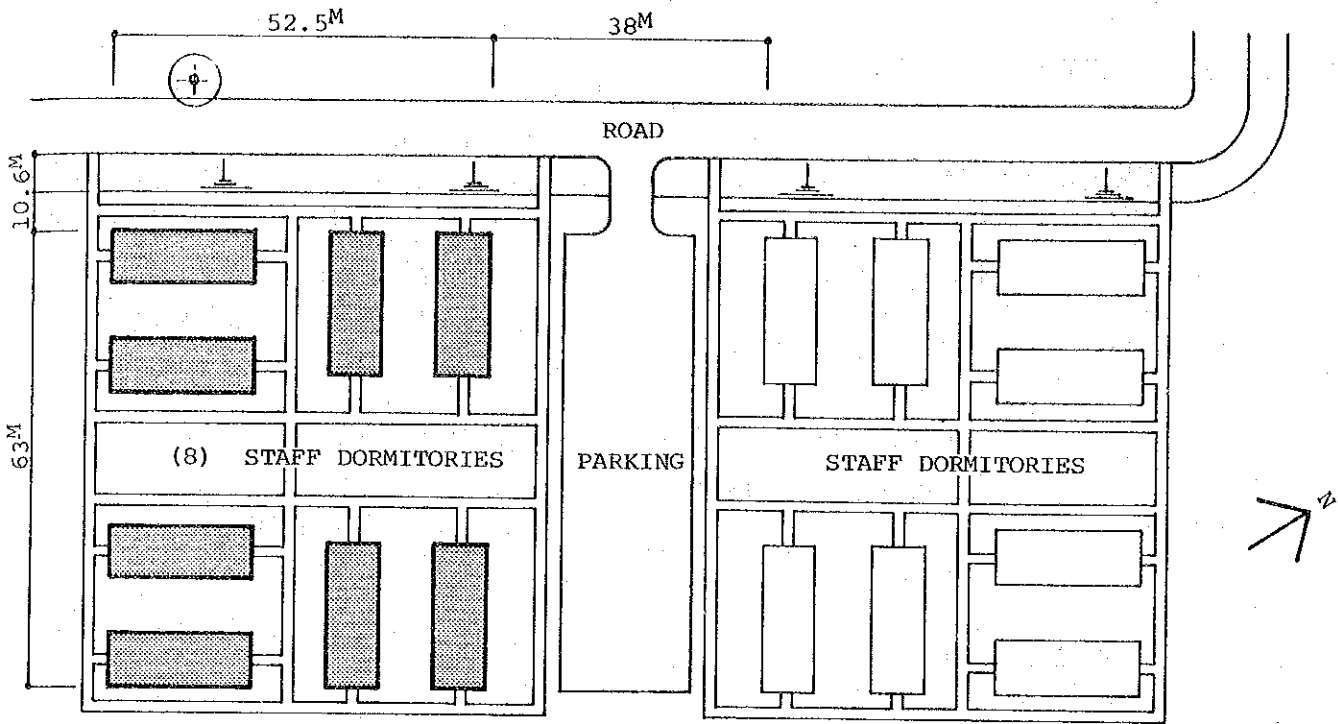
5. 中央放送設備

目的・機能	<p>難民への定期的な情報伝達を目的とし、出身国や定住先国の最新ニュースや、PRPC内での行事案内を放送すると同時に、放送を通じて補助的な語学・文化教育にも利用する。</p> <p>放送システムとしては、中央放送コントロール室を既存管理棟内に改築して設け、各フェーズ計10の難民住区へ屋外配線し、約40ヶ所の既存電柱上にスピーカーを設置し、中央放送コントロール室からの3ヶ国語（英語、ベトナム語、カンボジア語）による放送をそれぞれの難民住区へ同時放送する。</p>
管理運営	PRPC-CASSDEG
位置	中央放送コントロール室—中央地区、既存管理棟内 スピーカー—難民住区約40ヶ所
規模	既存管理棟（RC+CHB造平家建、1,134 m ² ）の一部改築 スピーカー用の屋外配線約10km
面積	中央放送コントロール室 24.5 m ² の改築
機材概要	放送設備機材、スピーカー設備、その他

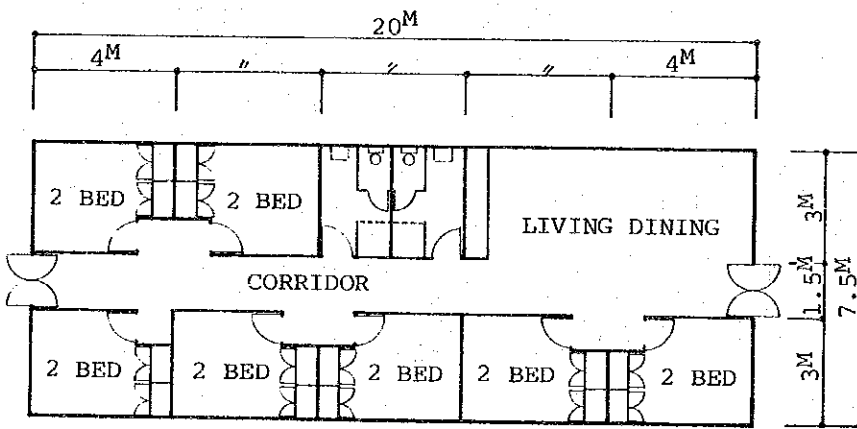


6. スタッフ用宿舎

目的・機能	初歩的職業技術訓練機能の拡充にともない、新たな増員スタッフを収容する宿舎を設ける。
管理運営	PRPC-GSG
配置	中央地区、現在建設中の8棟のスタッフ用宿舎に隣接
規模	建物は既存スタッフ用宿舎と同規模—寝室7室(2人/室)と居間・食事・厨房などの共用室、共同便所・シャワー室を持つ形式—とし、14人収容の宿舎を4棟、計56人のスタッフを収容する。 配置は医療スタッフ用宿舎4棟と合わせ8棟を、同一敷地内に建設する。
構造・面積	木造平家建、150㎡/棟×4棟の新築、延600㎡
機材概要	ベッド、机、イスなどの個室用家具、居間・食堂などの共用室家具・什器・備品、厨房機材、その他



SITE PLAN



PLAN

